



シネマネキ



2011年8月 第2号
(抜粋版)

cinemaneki

第15回カイエ・デュ・シネマ週間

学習の場所として機能しているイメージの日仏学院ですが、さまざまなイベントが企画されている場所とのこと。『カイエ・デュ・シネマ』について知らなかったしぶとひぐは、またひとつ映画のことを学びました。

よね

『カイエ・デュ・シネマ』という雑誌は、映画批評を確立させた雑誌のひとつ。初代編集長のアンドレ・バザンが〈作家主義〉という考えを表明し、ゴダールやトリュフォーに執筆もしていた伝説的な雑誌だったんだよ。彼らはヒッチコックの作品なんかを、言葉がわからなくてもとにかく全部見て、その経験が監督として才能を育んだとも言われているの。

ひぐ

そうなんだ。知らなかった。

しぶ

日仏学院は映画上映をたくさんしているの？

よね

そう、毎月のようにしているよ。日仏学院はフランス映画のメディアテーク的な活動もしていて、上映が活動のひとつの柱みたい。

ひぐ

展示やダンスもたくさんしていて、雰囲気の良いカフェも併設されているから、イベントも多いよね。今回の上映はわりと期間が長くて、けっこう行くタイミングがありそう。

よね

あ、現編集長が来日して講演をするみたい。

しぶ

日本人にとって、フランス映画は楽しめるかな？

よね

日本映画が好きな人はフランス映画が好きで、イタリア映画が好きな人は韓国映画が好きっていう人もいるよね。人間関係の描き方とか、扱う問題意識とかが、それぞれ似てるという理由で。

しぶ

へえ！

よね

日本に紹介されるフランス映画って、娯楽色の強いものはあまりみないよね。それこそ作家主義とか、アート色が強いというか。

しぶ

それ、現編集長に聞いてみたい！「フランスの娯楽映画についてきかせてください」ってね

。

ひぐ

日本とフランスの娯楽に対する考え方もちがうのかな。

よね

それもあるかもしれない。彼はなんて答えるのかなあ。

しづ

フランス語勉強して行かないと。

よね

日仏学院から神楽坂まで歩いて行けるから、ついでに散歩もしたら楽しいかもね。

[モーリス・ガレル追悼上映 | カンヌ映画祭批評家週間50周年](#)

[第15回カイエ・デュ・シネマ週間](#)

アニメーションを上映することで表現活動をしている松本力さんについて、何度も作品を観ている〈しぶ〉と〈よね〉が、松本さんの魅力について話し始めました。

しぶ

世田谷の教会での上映だって。松本さんの作品は基本的に〈宇宙〉っぽいイメージだね。

よね

鉛筆でひとつひとつのコマを描くスタイルで、ノートにフィルムの大きさにアニメーションをたくさん描いて、それを投影しているんだよね。

しぶ

そうそう。それからアニメーションを上映するときは、オルガノラウンジさんと一緒にやることが多いみたい。

よね

上映ライブの途中には〈ちからタイム〉があるんだよ。

ひぐ

〈ちからタイム〉？なんですかそれは。

しぶ

オルガノラウンジさんとのイベントのとき、松本力さんが一人でマイクを握るステージタイムのこと。ライブ中、松本さんは基本的に演奏の横でアニメーションの投影をしているのだけど、ステージに出てくる時間があって、それがとても魅力的なんだ。

ひぐ

松本さんはアニメーションを流すだけじゃないんだね。

しぶ

そう、私から見たらとても純粋で且つ野性的なパフォーマンスだよ。

よね

それを今回、教会でおこなうんだね。場所柄すごくいい音になりそう。

ひぐ

その世田谷の教会は今も使われているのかな？教会が会場なんて珍しいよね。

よね

松本さんは色々な場所で発表をしているけど、これからどんなところでやるかも、気になるね。

しぶ

でもやっぱり人が集まるところってことだよ。

よね

そうだね、みんなで見ることで何かの力を生むことってあるよね。この間のシネマネキ企画

の上映会でも感じたけど、大きい大人が皆で同じ光をじっと見ている、映画を観るってこともおもしろい行為だなあと思ったよ。

[天使の話・失くしものの](#)

[ライブパフォーマンス](#)

[THE SECRET GARDEN~Unlock the memories](#)

会場：[カトリック世田谷教会 かまぼこ兵舎](#)

三軒茶屋の駅、アクセスもとても良い場所での珍しい上映会。ドキュメンタリーについての話で盛り上がりました。

しづ

木と生きる！

ひぐ

そのフィルムを管理している〈民族文化映像研究所〉さんは、ものづくりの職人さんのドキュメンタリーフィルムをたくさん残しているところみたい。

よね

そうなんだ。

しづ

でもこの作品のラインナップをみると、日本の中でも生活に密着した〈ものづくり〉がしっかりあったんだなって思わせるよね。

よね

おじいちゃんが自分ために布織ったりしてりね。市井の人の職業をテーマにした劇映画ってイタリア映画とかには多いんだよ。靴磨きとか、髪結いとか。でも日本にはあまり無いかも。

ひぐ

下町の長屋文化とか、生活に焦点をあてたものとか、地位ある職業にフォーカスした物語は多いけどね。

よね

それを日本はドキュメンタリーというかたちで残してきたのかもしれない。

ひぐ

けっこう日本人は、ドキュメンタリー好きっていうイメージだよな。

よね

日本の場合はメディアが、画一的になりがちだからかな。海外と比較すると、テレビでも偏った局は少ないし。

しづ

ドキュメンタリーを撮るときって、どういうかんじなんだろう？監督は普通に話しかけたりするのかな？

よね

んー、自分をださないことが多いけど、原一男とか映画を撮ってる自分をも描き出して話題になった人もいるよ。ドキュメンタリーを超えるドラマが生まれるけど、それこそが一番のリアルであるという彼の考え方があるんだよね。

ひぐ

それにしても〈木〉というテーマでこれだけ映像があるとは。

しぶ

すごいよね。〈みる〉〈きく〉〈つくる〉を楽しめる企画だそうだよ。

ひぐ

〈きく〉は職人さんを記録に残した人と、その職人さんとの対談みたい。

よね

それは興味深い！

しぶ

俺の仕事は、こんなんじゃない。とかもあたりして!?

[ドキュメンタリーフィルムに探る暮らしの基層](#)

[Life in Film vol.2 特集 木と生きる](#)

高円寺にある、劇場での上映会。〈しぶ〉が最近お仕事でご一緒した音楽家が出演されるとのこと。この座談会、おいしいパエリアを食しながらおこなわれました。

よね

〈座・高円寺〉は劇場だけど、毎年おこなわれる『東京高円寺阿波踊り』のための練習専用スペースとして〈阿波踊りホール〉もあるんだよ。

ひぐ

すごいね！子ども向けのワークショップとかも、定期的に行っているよね。

よね

新聞？を作っていたりもするから、上演後もそれを持って街歩きができたりとかするんだよ。

しぶ

この上映会に出演する大口さんは、『のだめカンタービレ』に出ていたり、画家さんとのライブパフォーマンスを行ったり、幅広く活躍中だよ。アコーディオンやピアノを弾く方。

よね

このイベントには、大口さんの他にもサキソフォン、パーカッションの演奏と、活弁が入るんだ。

ひぐ

小津、アニメーションと紙芝居...

よね

『日の丸太郎』ってアニメーションなんだね。

ひぐ

二頭身の侍がひたすら修行をするかんじ。

よね

日本版ジャッキー・チェンみたいなかんじなのかな？

しぶ

アニメーションをつくるにあたって脚本はあると思うけど、でも活弁のための台本ってあるのかなあ。

しぶ

そうだよ、それ気になる。

よね

弁士のセリフよりも、音楽のほうが自由度高いよね。劇場が楽団や作曲家を雇っていたこともあって、毎日それを演奏するプロのミュージシャンがいたみたい。長い間、毎日のように演奏していたら「こっちのほうがいいんじゃない？」とか言って最初と最後で演奏かわって

そうだよね。

しづ

〈電腦紙芝居〉という気になる試みも！

ひぐ

〈座・高円寺〉は建物もおもしろいというウワサなので、建物を見に行くのも楽しそうだよね。

しづ

劇場を公演以外のイベントで活用する試み、最近増えているね。今後も多くなって行くのかな。

よね

たしかに美術や演劇も、美術館や劇場を飛び出していることが増えているよね。映画もそうなるのかな。あとはホールだと生演奏に適しているとか、そういうのもあるのかも。

ひぐ

その場所の特性を活かしたイベントが、場所の本来もつイメージに関わらず、横断的に行われているかんじがあるよね。

cinemaneki 2011年9月 第3号 (抜粋版)

<http://p.booklog.jp/book/33210>

著者 : cinemaneki

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/cinemaneki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/33210>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/33210>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.